

序

私は日沙商會創立者たる、故依岡省三氏の人物とその事業とについて、深き關心を有する者である。而して、その事業を繼承し、大成したる故依岡省輔氏の業績に對しては、ひそかに敬服し、殊にサラワツク王國に於ける日本農業移民の實績については、その將來の多望多幸ならんことを念願してゐる一人である。今や氏の全生涯は、私の學友岡成志君の筆によつて遺憾無く描寫された。岡君はさきに依岡省三傳を編述した。この人によつて今また依岡省輔傳が完成された。ことは決して偶然ではなく、眞に筆者その人を傳たりと稱すべきである。

思ふに、依岡氏兄弟は單なる事業家にあらず、況んや徒らに名利を越ふの人にあらず、自己の信念によつて國家のために獻身し努力する至誠の士である。ただ、省三依岡氏が歴國未だ成らざるに逝ける先驅者たりしに比して、省輔依岡氏がよく令兄の遺業を遂行したる守成者たり



故 人 像

(作氏・洋本谷)

得たるは、省輔依岡氏のために祝すべきであると同時に、日本民族として感謝を捧ぐべきであると信ずる。

そもそも、依岡氏兄弟の志をのべんとしたるサラワツク王國は、我が山田長政にも似たるゼームス・ブルツクの冒險によりて南洋ポルネオ島の一角に建設せられた英國の保護國として特殊の歴史と國是とを持ちみだりに他國人の侵入するを許さざる別天地である。ここに單身渡航して要路の大官を説伏し、日本人の移住開墾を許容せしめたる故依岡省三氏の偉勳は尋常ならざるものがある。しかもその遺業を大成するには忍耐と努力と才智と才幹とを必要とした。令弟依岡省輔氏はそのすべての資格を備へて更に多くのよき協力者に恵まれてゐた。或ひはロンドンにラジャー三世を訪ひ、或ひは親しくサラワツクを踏査し、ことに、ラジャー三世一行を日本に迎へては、よく機微の間にラジャー三世の希望を把握し、談笑の間に日本農業移民によるサラワツク水田開發のことを承諾せしめたるがごときは、一個の企業家たる以上に、外交の妙術を發揮したるものと謂ふべきである。

英領ポルネオ及サラワツクは、英國の東洋及南洋に於ける有力なる基地となつたのであるが、この稱を草しつつある時、個々皇軍の進軍によつて、英國の東、南洋に於ける地位は、まさに

累卵の危きにある。私は南進の先驅者依岡兄弟のサラワツクに於ける農園經營の苦心を思ひ、またはるかにサラワツク國內に現住して、その事業を繼續しつつある同胞のさかんなる意氣に對して敬意を禁ずる能はざるものである。

私と故依岡省輔氏との交友は、氏の晩年、二三年間のことに過ぎない。しかし私の知る限りの故依岡省輔氏は、公人として全日本人に敬慕せらるべき一個の先覺者であつたと同時に、また個人として友情厚く、青年を愛し、後進を指導すること最も懇切なる人であつた。時まさに大東亞解放の戰爭酷にして、全國民を擧げて大東亞共榮團建設の大業に、その全心全力を傾くる秋、未だ廣く世に知られざる先覺者の全生涯が極めて詳細に描き出されたることは、ひとり、表岡家及日沙商會のみの幸福ではないと信ずる。即ち些か所懐を述べて序となす所以である。

平井柳孝

緒言

一、本書は依岡家及び日沙商會の依頼にて岡成志が編述した。

一、本書の資料としては故依岡省輔追悼會筆記、知人の追懷記、故依岡省輔を語る座談會筆記、依岡省三傳、依岡省輔日記（明治四十三年）その他を参照した。

一、資料提供の筆者または談話者の名を擧げない場合もある。それらはすべて卷末の資料一覽表に記した。

一、故人に對しても、現存の名士に對しても、一切敬稱を略した。しかも筆者非才、よくそれらの人物を活寫し得ず、時に或は敬意を失してゐるやを惧れる。冀くば筆者の多罪に寛容ならんことを。

一、故人の遺稿は雜誌『草韻』に掲載されたものを同誌同人の蒐録したもので、故人が俳人としての詞藻はこれに盡きてゐる。

目次

序 永井柳太郎
緒言 一

依岡省輔傳

準備時代 五

其の一 島嶼ぎの一族 五

其の二 祖先 六

其の三 幼少年時代 一〇

其の四 郷國を立つ 一〇

其の五 札幌の省輔 一三

健闘時代 一四

其の一 臺北時代 一四

其の二 清津時代

試煉時代

其の一 長府の省輔

其の二 窮迫の生活

其の三 信仰の生活

其の四 活動の計畫

其の五 長府を去る

躍進時代

其の一 神戸製鋼所に入る

其の二 旅行専務

其の三 歐米旅行

其の四 神戸製鋼所を退く

南進の指導者

其の一 先驅者依岡省三

九

七

六

五

四

三

二

一

九

八

七

六

五

四

其の二 南進の計畫(上)

其の三 南進の計畫(下)

其の四 サラワック王国

其の五 日沙商會

其の六 工業界の先覺者

大 往 生

人間依岡省輔

其の一 よき良人

其の二 よき父

其の三 クリスチャン

其の四 友情の人

其の五 青年を愛する人

其の六 追憶と逸話

二九

二八

二六

二五

二四

二二

二一

二〇

一九

一八

一七

一六

一五

一四

(附録)

岳子翁の句	二五
雪の日に	二六
依岡省輔年譜	二七
外遊日程抄録	二八
依岡家の人々	二九
資料一覽	三〇
岳子遺稿	三一
岳子百句集	三二

依岡省輔傳